

各関係機関長 殿
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成19年度農作物病害虫発生予察情報について

平成19年度農作物病害虫発生予報第12号を発表したので送付します。

平成19年度農作物病害虫発生予報第12号

平成20年1月31日
徳 島 県

I. 野菜

冬レタス

灰色かび病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並～やや多い(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、発病株率が1.4%で、平年(13.4%、0.5%)並～やや多めの発生であった。
- (2) 1月25日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 過湿にならないようトンネル内の換気や圃場の排水に努める。特に収穫期には株元が繁茂して過湿になり発生しやすい。
- (2) 発病株は伝染源になるので、できるだけ早く除去する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

菌核病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生を認めなかった(平年同時期は発生圃場率が32.1%、発病株率が1.7%)。
- (2) 1月25日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) トンネル内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病株を放置しておくとも多数の菌核を形成して伝染源になるので、できるだけ早く処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並(前年より少ない)

2) 予報の根拠

- (1) 1月前半の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病度が0.3で、平年(23.5%、1.3)並～やや

少なめの発生であった。

(2) 1月25日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 品種は、本病レース1～7に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 葉が繁茂すると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。
- (3) 春先の病勢の伸展を抑制するため、薬剤は予防的に用いる。
- (4) 薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (5) 罹病株を圃場に放置すると、次作の第一次伝染源となるので、発病株は速やかに処分する。また、春先に萎縮して奇形となった株はべと病に感染しているので、速やかに処分する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並～やや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 1月前半の巡回調査では、発生圃場率が75.0%、寄生程度指数が1.8で、平年(28.3%、1.9)より発生圃場率が高かった。
- (2) 1月25日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並～やや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が7.1%、発病果率が0.3%で、ほぼ平年(2.5%、0.1%)並の発生であった。
- (2) 1月25日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃くらいの低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、速やかに圃場から持ち出し処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生程度は「少～中」、発生量は平年よりやや多い(前年より多い)

2) 予報の根拠

- (1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が21.4%、発病葉率が0.7%、発病果率が1.1%で、平年(10.6%、0.3%、0.5%)並～やや多めの発生であった。
- (2) 1月25日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予想されており、やや発生助長的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年並～やや多い(前年並～やや多い)

2) 予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、寄生株率が2.0%で、平年(13.4%、1.3%)並～やや多めの発生であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生程度は「少」、発生量は平年よりやや多い(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 1月後半の巡回調査では、発生圃場率が42.9%、寄生株率が9.4%、寄生葉率が4.9%で、平年(21.3%、4.4%、2.1%)より多めの発生であった。

(2) 1月25日発表の1ヶ月予報では、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または少ない確率ともに40%と予想されており、やや発生抑制的気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

(2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

II. その他

1. 朝夕の冷え込みが厳しくなる時期ですので、施設内の換気は、内部温度が急激に下がらないよう適切に行ない、夕方は早めに閉め込んで下さい。また、暖房機の点検を励行し、作目に応じた適正な温度管理を行って下さい。

2. 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

テレホンサービス 0883 (26) 1199

ホームページ <http://www.green.pref.tokushima.jp/boujyosyo/>

病害虫の発生予報、発生状況、防除法等をお知らせしています。